
バードケージ

黒霞 燈奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
バードケージ

【Nコード】
N7161E

【作者名】
黒霞 燈奈

【あらすじ】
今、鳥と人間の伝説が始まる。共存と戦争をテーマにした、ファンタジー。

プロローグ

もし自分に翼があったら。
もし自分に力があつたら。
もし自分に勇気があつたら。

あなたは、考えたことは無いだろうか。今の自分に無い能力が欲しい、と。

* * *

夢を見た。内容はよく覚えていないが、とてつもなく恐ろしい夢だったということは、大量の寝汗で想像がつく。

「どうした？ 魘されていたぞ？」

俺の顔を見て、女が言った。

「いや、大丈夫だ……。ただの夢だ」

そうか、と女。

きつと、この悪夢の原因はアルバツシュ戦争にあるのだろう。

あの悪夢の戦争……。

我が国、ターバリアム共和国の勝利に終わった戦争。

国としては、喜ばしい成果を得たに違いない。しかし、民は憤っていた。

大切な家族を、友人を、恋人を……。戦争という惨劇に巻き込ませ、苦しませ、挙げ句の果てに道具として使われていったことを、誰が冷静に聞いていられようか。

俺はそんなことを思うと自然と涙が溢れていた。

俺の名はラグナロクⅡナイツⅡシュビッツ。親しい者からはラグと呼ばれている。

ターバリアム共和国に暮らす、一住民だ。

それと共に、ターバリアム共和国戦闘騎士軍総司令官という重役を任されている。

この国は、平和と共存を願って築き上げられたところだが、3年前のアルバツシュ戦争によって、国民と政府とが対立しあっている状況にある。

アルバツシュとは、東の果てに浮かぶ巨大な人工島国だ。

自ら戦地に出向いて戦った俺が言うのも何だが心苦しいが、アルバツシュを攻撃したことは間違いだったのではないか、と思う。

アルバツシュの民には、不思議な力が備わっていたからだ。

ある者には翼があり、自由に空を飛んでいた。

ある者にはバネのような足があり、楽しそうに跳ねていた。

ある者には水掻きがあり、かなりのスピードで泳いでいた。

ある者には暗闇をモノともしない眼があり、闇に蠢く者を見据えていた。

そして。アルバツシュの民に共通するものがあつた。

1人に1匹、生まれた時から不死鳥がつくのだ。

不死鳥と言えども、主によって様々な不死鳥が存在するらしい。

まあ、あくまで噂だが、な。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7161e/>

バードケージ

2010年12月27日00時30分発行